
水たまり

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水たまり

【Nコード】

N1538N

【作者名】

潤

【あらすじ】

花火をみていた村田 康司は
ふと自分の片想いの相手ー今田 恋香ーを
ふと一緒にみれたらなあと思う。
そして出会いや告白したことを思い出す。

花火きれいだな。

ああこれもキミとみることが出来たならなあ。

そんなことを思いつつ

一人で空に打ち上げられる打ち上げ花火を

みているのは村田 康司。

キミとはもちろん今片想いしている

今田 恋香である。

そうそれは出会い。

トオ。

勢いよく水たまりを飛んだ。

そこまではよかったが…。

しかし思ったよりも水たまりが長く

バシャーン。

「…大丈夫…ですか？頭」

「つていきなり初対面の相手に

頭大丈夫かってきくんかい」

「だって、そんな長い水たまり

踏んじやえばいいじゃないですか」

「このクツおニユーだから

汚したくないんだよ」

「そうですか」

「それじゃ私学校あるんで…。

その制服同じ学校じゃないですか」

「え…。

ホントだ」

「何年ですか？」

「1年です」

「な〜んだ。」

同期なんだ。

敬語使わないで話すね」

「うん」

そして村田と今田は同じバスに乗って
話しながら登校した。

「そっか！。」

でさー…」

そうこうしているうちに学校に着いた。

「あ、学校だね」

村田はそう気付いた。

「うん」

「まーこのノリで1年のところも
一緒に行くか」

「え…。」

でも勘違いされないかな？」

「気にすんなよ、んなこと」

「うん…」

1年の廊下。

「じゃ、私4組なんで。」

ありがと。

そついや自己紹介してなかったね。

私は今田 恋香。

キミは」

「俺は村田 康司」

…。

「うえい」

いつもながら謎な挨拶を
してくる奴がきた。

菊丸である。

「よう」

「お前今女といた。

彼女？

そんな私という人がいるのに
浮気なんて…」

「ああ。

女子といたよ。

彼女じゃねえし。

つーかお前男だから

その気持ち悪いセリフとかやめてくれ。

俺が周りからゲイだと思われたら

困るだろ」

「そんな…。

私は康司が好きなのに…」

菊丸はまだ続ける。

「アホだ。

やるなら俺以外の人間の

のりのいい奴にそれやっといてくれ」

「デメエ。

ノリ悪いんだよ」

「俺は元からこういう奴だ」

「あーくそ。今日はなんか調子でねえ」

と呟きながら村田は下校していた。

バスがくるのを待っていると

今田が後からやってきた。

「や、村田君」

「おう」

…。

「バスまだ来ないね」

「おう」

「どこで降りるの？」

「ん？行きと同じだから」

「そっか。」

「じゃ私と同じだね」

「え…」

でも今まで見たことなかったよな？」

「うん。」

最近こっちに引つ越してきたの。

お父さんの仕事の事情でね」

「へえー」

プシュー。

バスがやってきた。

2人は乗った。

そして話しながら同じとこまで乗った。

本格的にひかれだしたのはこの頃だ。

「うひょーい、村田君だあ」

「菊丸といい今田さんといい

俺の周りには変な挨拶するやつだばっかだな」

「菊丸って？」

「ん？クラスメートの男子だ」

「友達ではないの？」

「んーまー友達というほど親しくねえしな」

「あ、わかった。」

村田君の彼氏でしょ」

「バカ」

そういい村田は今田の頭を
クシャクシャとなでていた。

「じゃ、私は村田君の何？」

「あーうー…」

うーん。

今田さん…。

「なんか毎日同じバスで登校してて…」

それで好きだな」

…。

いつてしまった。

そう正直出会った頃から

気にしていたんだ。

「ありがとう」

その日を境にバスは同じになることはなかった。

まーたまに廊下ですれ違えば

いつものように変な挨拶はしてくるが。

でもまーそれが村田には嬉しかった。

そして今。

花火きれいだな。

ああこれもキミとみることが出来たならなあ。

そんなことを思いつつ

一人で空に打ち上げられる打ち上げ花火を

みているのは村田 康司。

キミとはもちろん今片想いしている

今田 恋香である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1538n/>

水たまり

2010年12月9日13時51分発行